

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「山形県産野菜のキーマカレー」で消費拡大
(山形県本部)

6-7面

「ニッポンエールプロジェクト」特別座談会
(営業開発部、広報・調査部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

News!



「山形県産野菜のキーマカレー」で消費拡大

山形県、ハウス食品と8月31日まで販売促進

山形県本部



山形県庁を訪問した(右から)長谷川県本部長、松田東北支店長、吉村県知事



山形県産夏野菜とカレーに合う「雪若丸」

夏場に旬を迎えるナス、パプリカ、ズッキーニを使用したレシピを共同で開発し、県内スーパーの店頭などで、試食宣伝などの販売促進を実施しています。

7月11日には、長谷川直秀県本部長とハウス食品(株)の松田英之東北支店長が山形県庁を訪問しました。吉村美栄子県知事にキャンペーン内容を報告し、共同開発した「山形県産野菜のキーマカレー」の試食会を行いました。

長谷川県本部長は、「旬の夏野菜を、自信を持って提供したい。地元の野菜を食べて夏を乗り切ってほしい」と話しました。

山形県本部では、県産野菜の地産地消と消費拡大に向けた取り組みを継続していきます。

山形県本部は、カレーの本格シーズンである夏に、山形県、ハウス食品(株)と県産夏野菜を使用した地産地消企画「野菜をカレーでおいしく! 地元を食べつくそう!」キャンペーンを、7月1日から8月31日まで展開しています。

News!



フルーツレディが果実や野菜をPR

県知事や報道機関を訪ねて旬の山梨県産をアピール

山梨県本部



長崎知事(中)と小池会長(右から2人目)、フルーツレディら

訪問先では小池会長と山梨フルーツレディから、ハウスで栽培された「シャインマスカット」や桃の「加納岩白桃」、スモモの「大石早生」、ナスやトマト、キュウリなどの新鮮な県産果実や野菜が長崎県知事に手渡されました。

小池会長は「今年の果実や野菜の生育は順調に進み、自信を持って生産したおいしい農作物が7月に入り本格的に出荷が始まった。ぜひ消費者の皆さんに食べてもらいたい」とあいさつしました。山梨フルーツレディは「山梨県のおいしい果実や野菜を全国の皆さんに知ってもらえるように、一生懸命PRしていきたい」と決意を述べました。

山梨県本部など県内JAグループと山梨県で組織する山梨県農畜産物販売強化対策協議会は7月2日、小池一夫協議会会長、中澤豊一協議会副会長、梶原一明協議会幹事長、山梨フルーツレディらと共に長崎幸太郎山梨県知事を表敬訪問、県内報道機関も訪れ、今年度の青果物をPRしました。



長崎知事(左)に県産果実を手渡す小池会長

山梨県本部と同協議会は今後も青果物のPRを通じて農畜産物の販売を強化していきます。



全日本中学生カーリング選手権大会に協賛

「もぐもぐブース」を設置し「ニッポンの食」で応援

広報・調査部



(上) 大会出場選手らの
集合写真
(下) 優勝した「青森CA」



4回目の開催となった大会には全国各地から計9チーム38人の中学生選手が出場。中学生カーリング日本一を目指し、全18試合の熱戦を繰り広げました。優勝は「青森CA」。2大会ぶり2回目の優勝に輝きました。大会前日には、三浦由唯菜

全農は、7月25～27日に新潟県新潟市のMGC三菱ガス化学アイスアリーナで開催された「第4回全農全日本中学生カーリング選手権大会」に特別協賛しました。

選手(札幌国際大学・FIS U冬季ワールドユニバーシティゲームズ「2025トリノ」金メダリスト)による食事内容やトレーニングなどについての講習会を実施。その後、管理栄養士によるスポーツ栄養教室を開きました。

表彰式では、新潟県本部の高野洋本部長が1～3位のチームに、新潟県産米「新之助」と「にいがた和牛」を副賞として贈呈しました。

全農は会場に「もぐもぐブース」を設置し、出場選手に試合前後でのエネルギー補給用の食材を提供し、選手と大会を「ニッポンの食」で応援しました。

長野五輪に出場した大澤明美さんの解説と共に決勝大会の様子を「日刊スポーツ」「YouTubeアカウン

トで配信予定です。



ニッポンエール「ふる～じょんグミ」を新発売

全国ご当地グミ総選挙2025の1位と2位のフレーバーを合体

営業開発部・全国農協食品



ニッポンエール「ふる～じょんグミ」

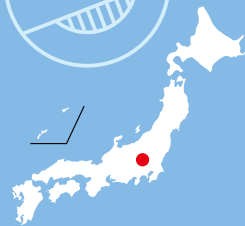
全農と全国農協食品(株)は「ニッポンエールグミ」の新商品として、ニッポンエール「ふる～じょんグミ」を開発しました。全国農協食品(株)より8月25日から全国の量販店などで販売します。

「ふる～じょんグミ」は、ニッポンエール全国ご当地グミ総選挙2025の投票で、1位の長野県産シャインマスカットグミと2位の福島県産あかつき桃グミを合体させたグミです。

グミの内側には長野県産シャインマスカット果汁、外側には福島県産あかつき桃ピューレを使用し、2種のフレーバーを楽しめるグミです。

ミに仕上げました。フルーシの豊かな香り・甘みを最大限に表現しました。二つの味が合体した、これまでにないフレーバーのグミを味わうことができます。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



群馬県米麦種子センターが始動

3JAの施設集約、優良種子を供給へ

群馬県本部は、県内の米麦種子の調製作業を担う県内3JAの各種子センターが建設して35年以上が経過し老朽化が進んでいたため、既存の種子センターを1カ所に集約する広域化について関係機関などと検討を進め、「群馬県米麦種子センター」を竣工しました。

同センターは県内15JA、JA群馬中央会、県米麦大豆振興協会、県本部などで構成した一般社団法人で運営し、作業全般を種子センター運営で実績のあるJA佐波伊勢崎へ委託しています。

4月22日に竣工式を執り行い、林康夫運営委員会会長をはじめ、県内各JAの組合長や行政関係者ら約60人が出席し、施設の円滑な運営を祈願しました。林会長は竣工式で「県域全体の種子調製の受け皿機能を発揮するとともに、最新の調製機器導入により、生産者へ均質な優良種子の安定供給を図っていきます」と話しました。

選別設備は国内製で統一

同センターは、鉄骨造り2階建てで、延べ床面積は約1873平方メートル。

比重選別機、脱芒機、色彩選別機、精選機などの選別設備は国内製で、万が一の機械の故障時も部品の供給が迅速に対応でき、マシンダウンを最低限に抑えられます。

既存の種子センターが同時期に調製していた作業を、同センターでは順次実施するため一時原料置き場や一時製品置き場も設置しました。

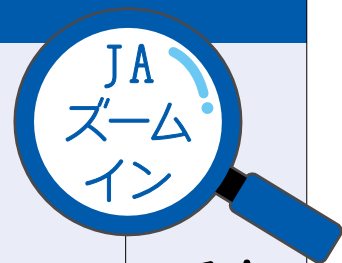
水稲・小麦・大麦に対応 年間処理製品は約800ト

6月から稼働し、6月から8月に麦類、10月から12月に水稲を予定し、年間処理製品重量は約800トを見込んでいます。

米麦は、群馬県の農家収入を支え、経営基盤となる重要な品目です。気候変動に伴う猛暑の影響などがあるものの、高品質な種子を安定的に生産者に届ける使命を認識し、群馬県本部は今後も県内JA、関係機関と連携しながら、米麦生産の維持・発展に向けた優良種子の確保と安定供給を目指します。

袋詰めし積み上げられた大麦種子「シュンライ」

国内製の比重選別機



利用に応じて直売所クーポン

ミカン振興へ担い手スクール

JAべっぷ日出 (大分県)



概要	2025年3月31日現在
正組合員数(団体含む)	2316人
准組合員数(団体含む)	1万4322人
職員数	134人
販売品取扱高	13億6千万円
購買品取扱高	5億1千万円
貯金残高	970億1千万円
長期共済保有高	1991億5千万円
主な農畜産物	ギンナン、かんきつ、梨

大分県の東海岸中央部に位置するJAべっぷ日出は、2010年9月に旧JA別府市と旧JA日出町が合併して誕生しました。

ランクが上がれば クーポン金額も高く

別府市と日出町にあるJA直売所「ふれあい市場旬の館」では、JA各事業の利用状況に応じてランク付けを行い、それに基づいて算出された金額のクーポン券付きセール案内はがきを毎月1回郵送しています。

ランクの判定は、独自開発の名寄せシステムで集計されたデータを基に、信用・共済・購買など各事業の取引内容をポイントに換算し、その合計ポイント数に応じ

て「スタート」から「プラチナ」までの6段階に振り分けられます。

取引内容が多いほどランクが上がリ、クーポンの金額も高くなるため、さまざまな事業の利用率向上につながっています。



ランク付けクーポンはがき

町とスクール開校 1期生が就農へ

日出町はかんきつ栽培が盛んで、約30年前はハウスミカン生産者が50人、生産量が約700トンありましたが、高齢化や燃油価格の高騰



ファーマーズスクール修了生と就農コーチ

などの影響から激減しています。

こうした状況を受け、23年度に日出町と連携しハウスマカンのファーマーズスクールを開校しました。1期生として2人が受講し、今年3月に2年間の研修期間を終えました。現在は日出町内にある農地を整備中で、完了しだいハウスミカンや露地ミカンなどのかんきつ栽培をスタートする予定です。

金融移動店舗車で 利便性の確保も

日出地区の金融店舗の統廃合に伴い、20年8月から金融サービス機能を備えた移動店舗車「SUNSUN」の運行を始めました。現在日出町の2地区で週2日ずつ



移動店舗車「SUNSUN」

運行しています。遠隔地の高齢者を中心とした組合員や利用者の利便性を確保するだけでなく、広域災害時の臨時的な窓口としても活用が期待されています。

移動店舗車を通じて、地域とのつながりを大切にしながら、今後もお客さまにより一層の「便利」と「安心」をお届けしていきます。

「ニッポンエールプロジェクト」特別座談会

全農と企業の共創が広げる 産地応援の輪
「生産振興」「消費拡大」「商品開発」それぞれの想い

全農と企業が商品を通じて産地を応援していく「ニッポンエールプロジェクト」。今回は数ある参画企業の中から3社のキーパーソンと、全農の取り組みを牽引する戸井和久^{けんいん}チーフオフィサーによる座談会をお届けします。

【営業開発部、広報・調査部】

国産の食べものと
産地を応援する

戸井和久JA全農チーフオフィサー

「ニッポンエール」は2019年から全農が展開する商品ブランドです。各地の特色ある農畜産物を使った加工品を手がけながら、21年には国産の食べものと産地を応援する活

動を加速させるため「ニッポンエールプロジェクト」を始動し、23年に協議会を設立しました。協議会には三つのミッションがあります。

一つ目は「生産振興」で、持続可能な仕組みで原料の安定供給を支えること。二つ目は「消費拡大」で、国産農畜産物の需要拡大や認知度向上に取り組みこと。三つ目は「商品開発」で、付加価値の高い商品を開発し、産地の想いを伝えていきます。

村上大輔 協同乳業(株)取締役 乳を事業の基盤とする当社は、「農協果汁」の販売に伴う果汁原料に関連した産地との取り組みをきっかけに参画しました。商品を通じ産地の想いを届けられる意義を強く感じています。原料や商品開発だけでなく、生産や品質保証、営業に至るまで、部署を越えたメンバーが力を合わせることで、会社全体に共感や意識の共有が広がりました。このプロジェクトを通じ、メンバーが



左から協同乳業・村上取締役、不二家・瓜生副社長、伊藤園・神谷専務、全農・戸井チーフオフィサー

【出席者】

協同乳業株式会社取締役

事業開発部・商品開発部担当

村上 大輔氏

株式会社不二家取締役副社長

洋菓子事業本部担当・菓子事業本部担当・購買担当

瓜生 徹氏

株式会社伊藤園 取締役専務執行役員

総合企画部 グループ経営推進部

サプライチェーン戦略部担当兼特命担当

神谷 茂氏

JA全農チーフオフィサー

戸井 和久氏



ニッポンエールプロジェクトで瀬戸内広島レモンを使用して3社が開発した商品



全農・戸井和久チーフオフィサー



一体となったもののづくりの良い流れができてきたと感じています。



協同乳業(株)・村上大輔取締役

瓜生 徹(株)不二家取締役副社長 食の

安全・安心を重視する消費者の方が増えている中、「ニッポンエール」の取り組みは、当社がお菓子やケーキを通じてその価値をお伝えする非常に良い機会になると考え、参画しました。それに加えて、商品を見ると「どんな味なんだろう?」「どんな素材だろ



(株)不二家・瓜生徹取締役副社長

う?」と興味を持つ方も多くなっています。共同開発を通じ、思わず手に取ってみたいくなる魅力的な商品が可能になったと感じており、その背景には「ニッポンエール」の安心感があると思います。

農産物の魅力をもっと伝えたい

神谷 茂(株)伊藤園取締役専務執行役員

当社はお茶の会社ですが、実は「農」とも深く関わっており、国産農作物をもっと広め、地域の果実を商品化し貢献したいと考えていました。最初に取組んだのは21年に手がけた宮崎県産の「日向夏」で、食べ方を知らない社員も多く「どう食べるの?」という声が上がりました。全国の拠点に生果を配布し全員で試食したところ「こんなおいしい果物があるのか」と気づき、



(株)伊藤園・神谷茂取締役専務執行役員

販売への意気込みが高まりました。自社商品を通じ社会貢献できる喜びが強いやりがいにつながっています。

戸井チーフオフィサー 全国的にまだ知られていない農産物も多くあります。例えば47都道府県の素材を使ったグミには、知られていない果実も多いです。商品を通じ「こんな果実があるんだ」と知っていただき、「旬の果実も味わってみたい」と思ってもらえれば何よりです。

「ニッポンエール」の輪を広げよう

神谷専務 当社には「自然・健康・安全・おいしい」の四つがそろわなければ商品化しない考えがありますが、「ニッポンエール」の商品はそのすべてを満たしています。さらに、「ニッポンエール」という響きがいいですよ。パッケージに掲載された「全国の産地を応援する」という言葉は、今の消費者の価値観にも合っていると思います。これまでは果実が中心でしたが、今後は酪農や穀物にも広がっていけばと考えています。

瓜生副社長 今は外国人観光客も多く、日本の文化を楽しむ方が増えています。今回の飲料や乳製品、お菓子を通じ、日本の食の魅力をPRできる

商品展開を進めたいですね。北海道の牛乳が米国で注目される動きもありますし、今後は作り手の個人名まで出して発信できる取り組みも面白いと思います。より多くの方に喜んでいただけるよう「ニッポンエール」の輪を広げていきたいです。

消費者と共に産地を応援する

村上取締役 社会や環境が大きく変化する中、産地の方々は課題を抱えながら取り組まれておりますが、その中にあっても、変わらずに継続されている丁寧な仕事ぶりが品質に表れるのが日本の農産物の特徴だと思います。私たちも工夫を重ね、その良さを生かして消費者の皆さまにしっかり届けることが課題解決の一助になると信じています。

戸井チーフオフィサー 実際に商品を食べতে応援していただくことが、環境保全や原風景の維持、地域社会への貢献にもつながっていく。そういう共通認識を育んでいくためにも、産地の想いが伝わる付加価値の高い商品を共創していきたいと思っています。すべての視点がまさに「エールをおくる」というプロジェクトの根幹であり、私たちの原動力になっています。

全農杯全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部)に 特別協賛

全農は7月25~27日、兵庫県のグリーンアリーナ神戸で開催された「全農杯2025年全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)」に特別協賛し、出場選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。【広報・調査部】

大会には、全国都道府県予選会を勝ち抜いた卓球少年・少女たち1006人が集結し、ホープス(小学6年生以下)、カブ(同4年生以下)、バンビ(同2年生以下)の各種目の日本一の座を競いました。最終日27日には、安田忠孝代表理事専務(当時)が1~3位の選手に秋田県産米「あきたこまち」と国産黒毛和牛を贈呈しました。

会場内の「全農ブース」では、石川佳純さんの卓球教室である「全農 presents 石川佳純47都道府県サンクスツアー」で実施している県産農畜産物に関する〇×クイズ企画を実施しました。子どもたちだけでなく、一般の方にも各県産農畜産物の理解を深める機会となりました。

大会初日の25日には全農所属の石川さんがサプライズでブースへ登場し、〇×クイズに挑戦する場面もありました。また、農協ミルクモナカや、石川佳純(かすみん)カレーなど全農グループ商品も販売し、会場を盛り上げました。



〇×クイズ企画に挑戦する石川さん



全農グループ商品の販売

小学生卓球の 日本一決まる



副賞を贈呈した安田代表理事専務(当時)と
ホープスの部の入賞選手

副賞一覧

賞名	賞品
優勝	秋田県産米「あきたこまち」30kg、 国産黒毛和牛 3kg
2位	秋田県産米「あきたこまち」20kg、 国産黒毛和牛 2kg
3位	秋田県産米「あきたこまち」10kg、 国産黒毛和牛 1kg
フェアプレー賞	石川佳純(かすみん)カレー、 石川佳純さん直筆サイン色紙
参加賞	農協ごはん(バックごはん)、 えひめ飲料「POM 塩と夏みかん」他

JA全農の産地直送通販サイト JAタウン ショップ紹介

あつめて、兵庫。

「たじまピーマン」は関西最大級のピーマン産地である兵庫県北部に位置する但馬地域で作られるブランドのピーマンです。一般的なピーマンよりも一回りほど大きく濃い緑色をしており、肉厚で歯応えがよく苦みも少ないのが特徴です。そんな新鮮な「たじまピーマン」を中心に、但馬の野菜を詰め合わせた野菜セットをご用意しました。

さらに現在、猛暑に苦しむ「たじまピーマン」を救うべく、食べて応援プロジェクトを実施中です。商品一つ購入につき100円が、かん水装置の導入の支援金として活用されます。ぜひ「たじまピーマン」を食べて、産地応援をお願いいたします。



たじまピーマンたっぷり! JAたじま野菜 BOX
… 1980円(税込み)

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから



『JA全農トピックス』の公式
Xはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。